

内灘町男女共同参画に関する
アンケート調査

集計結果報告書
【概要版】

平成 18 年 3 月

内 灘 町

目次

調査の概要	
1) 調査概要.....	1
2) 集計方法.....	1
調査の結果	
【回答者の属性】	
問1 性別.....	1
問2 年齢.....	1
問3 お住まい.....	2
問4 結婚の有無.....	2
問5 職業.....	2
【男女平等について】	
問6 「男女平等」「男女共同参画社会」の認知度.....	3
問7 日本の社会における男女の地位の平等性.....	4
問8 男女が平等になるために最も重要なこと.....	5
【家庭生活について】	
問9 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識.....	6
問10 家庭から得られること.....	7
問11 家庭の仕事の役割.....	8
問12 少子化の原因.....	9
問13 高齢期の不安.....	10
問14 介護や看護が必要になった時の対応.....	11
問15 「高齢者」の年齢.....	12
【就労について】	
問16 職場での男女の平等性.....	13
問17 女性が職業を続けていく上での障害.....	14
問18 仕事と家庭の両立のために必要なこと.....	15
【社会的な活動について】	
問19 仕事以外の社会活動.....	16
問20 社会的な活動に参加していない理由.....	18
問21 地域活動での男女の平等性.....	19
問22 女性の進出に必要なこと.....	20
【人権について】	
問23 女性の人権が尊重されていないと感じること.....	21
問24 ドメスティック・バイオレンスの経験・認知度.....	22
問25 ドメスティック・バイオレンスの相談機関の認知度.....	23
問26 人権を侵害する行為に対して重要な取り組み.....	24
【男女共同参画社会について】	
問27 男女共同参画社会の実現のために必要なこと.....	25
問28 男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきこと.....	26

調査の概要

1) 調査概要

- ・実施日：平成 18 年 1 月 31 日（火）～平成 18 年 2 月 8 日（水）
- ・方 法：郵送による配布回収
- ・対象者：内灘町在住の 20 歳以上の男女 2,000 名を無作為に抽出
- ・回収数：945 票
- ・回収率：47.25%

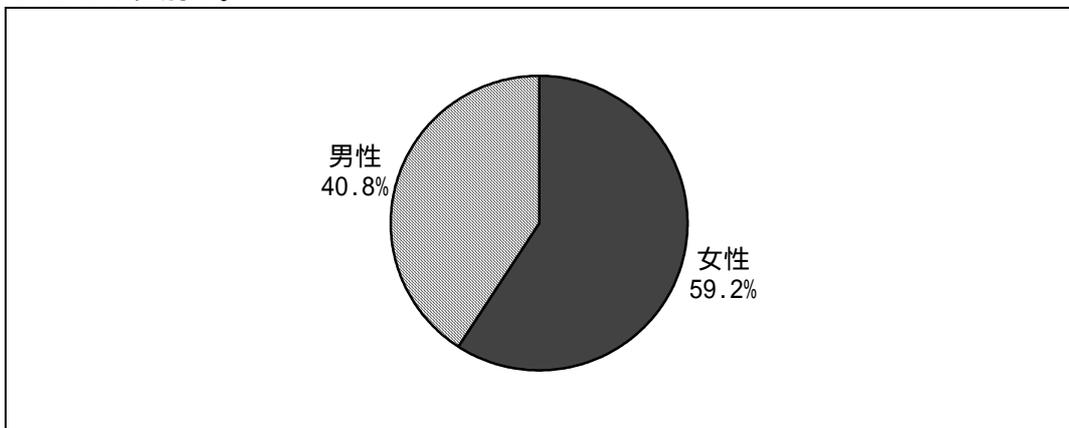
2) 集計方法

- ・各設問の集計は、無回答を除いて小計し、これを母数（100%）として各選択項目の回答数の割合を示す。
- ・なお、パーセンテージについては、小数点第 2 位を四捨五入しているため、構成比の合計は必ずしも 100%には一致しない。
- ・また、複数回答の設問は、1 項目以上選択した回答者数を母数（100%）としているため、各選択項目の回答数の割合は、合計すると 100%を超える。

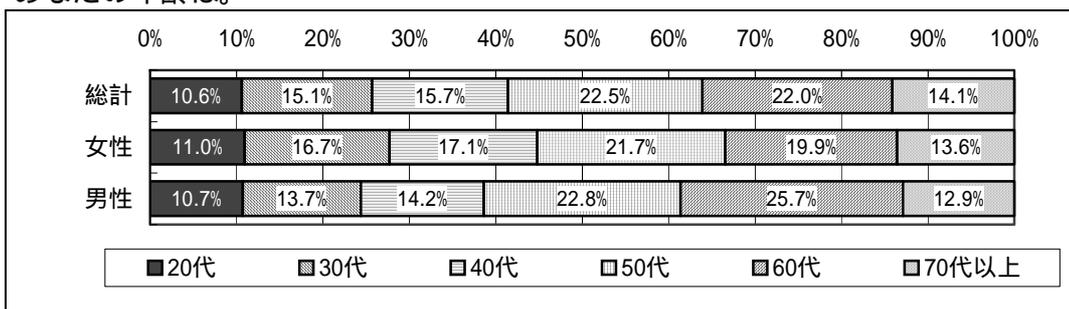
調査の結果

【回答者の属性】

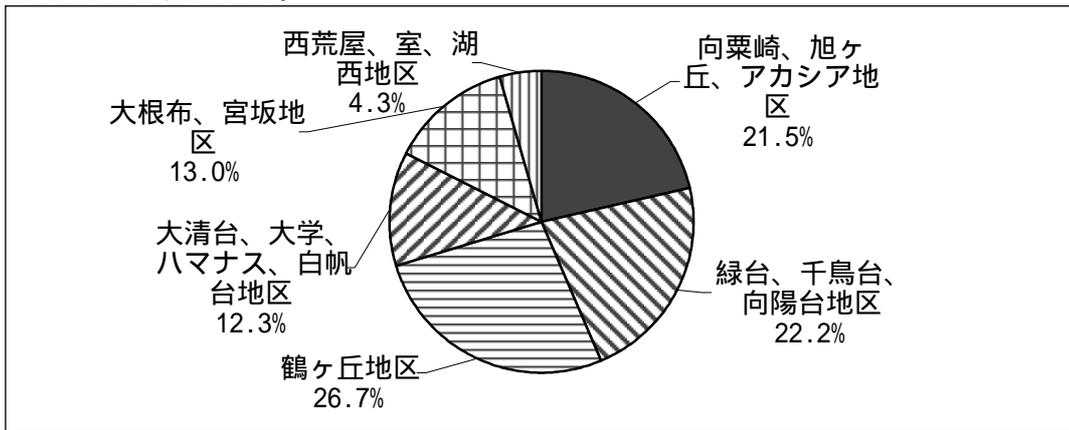
問 1 あなたの性別は。



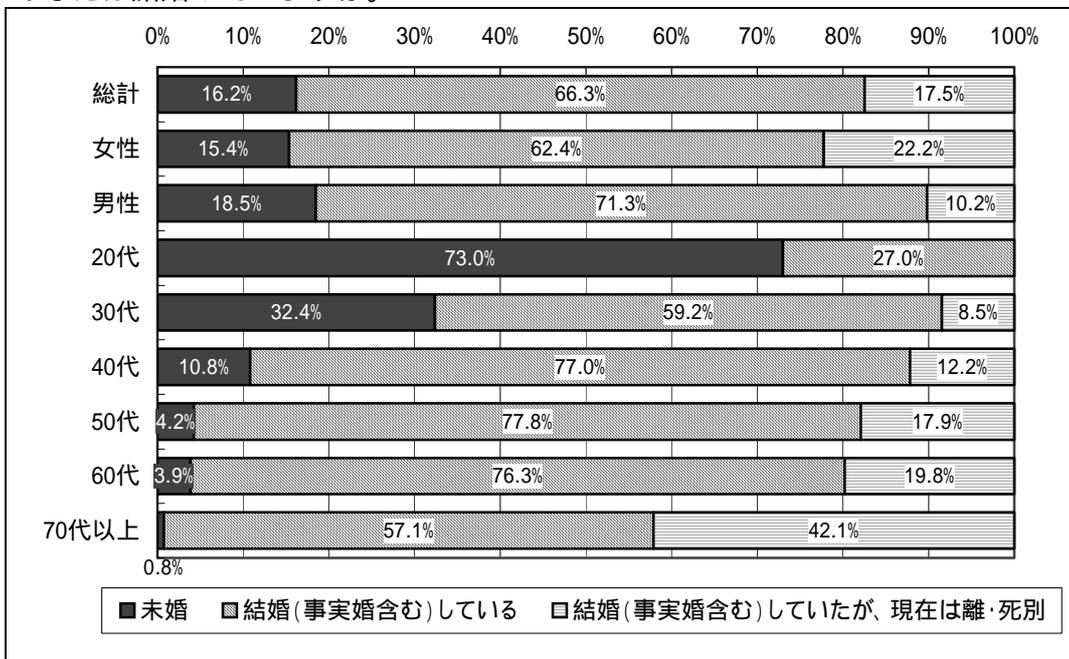
問 2 あなたの年齢は。



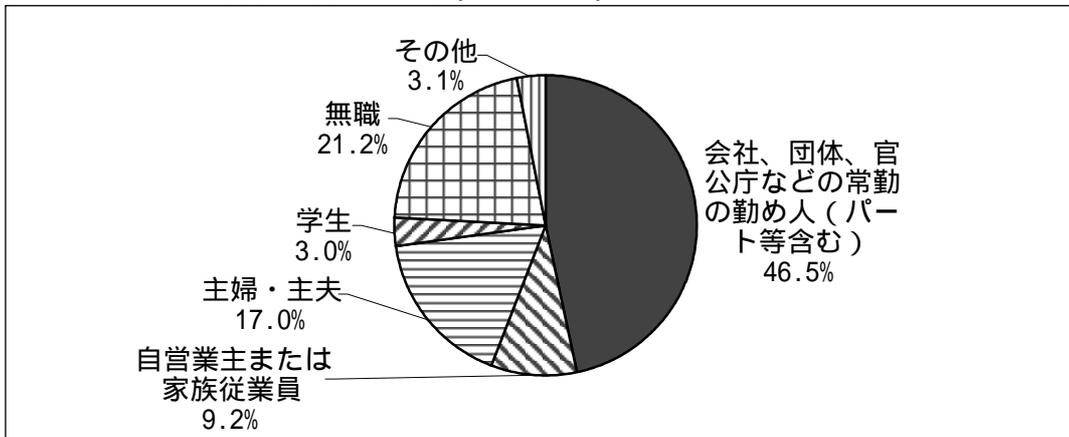
問3 あなたのお住まいは。



問4 あなたは結婚していますか。



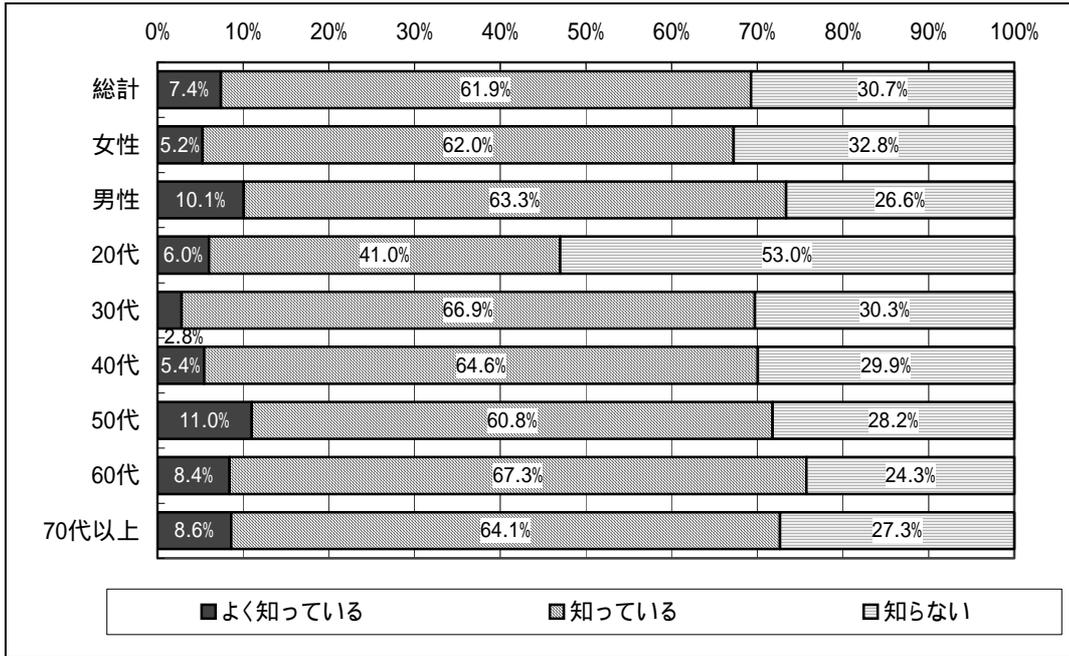
問5 あなたの主たる職業は何ですか。(は1つ)



【男女平等について】

問6 あなたは「男女平等」「男女共同参画社会」について、どの程度知っていますか。(は 1つ)

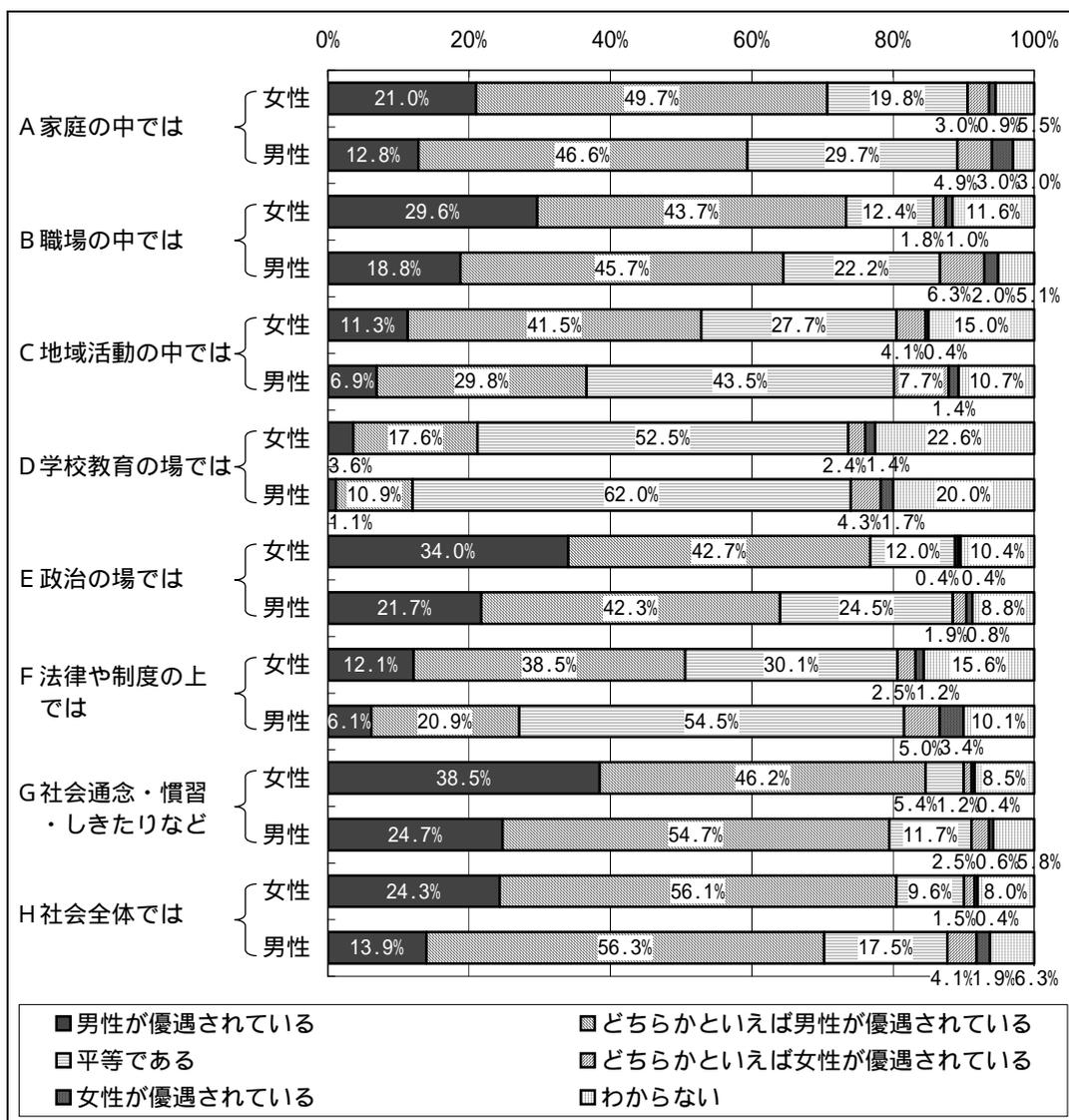
男女ともに「知っている」(男性全体 63.3%、女性全体 62.0%) が最も多く、次いで「知らない」(男性全体 26.6%、女性全体 32.8%) が多い。
 なお、20代は「知らない」が最も多い。



問7 現在の日本の社会において、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(は1つ)

『D学校教育』を除き、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」という認識が共通している。

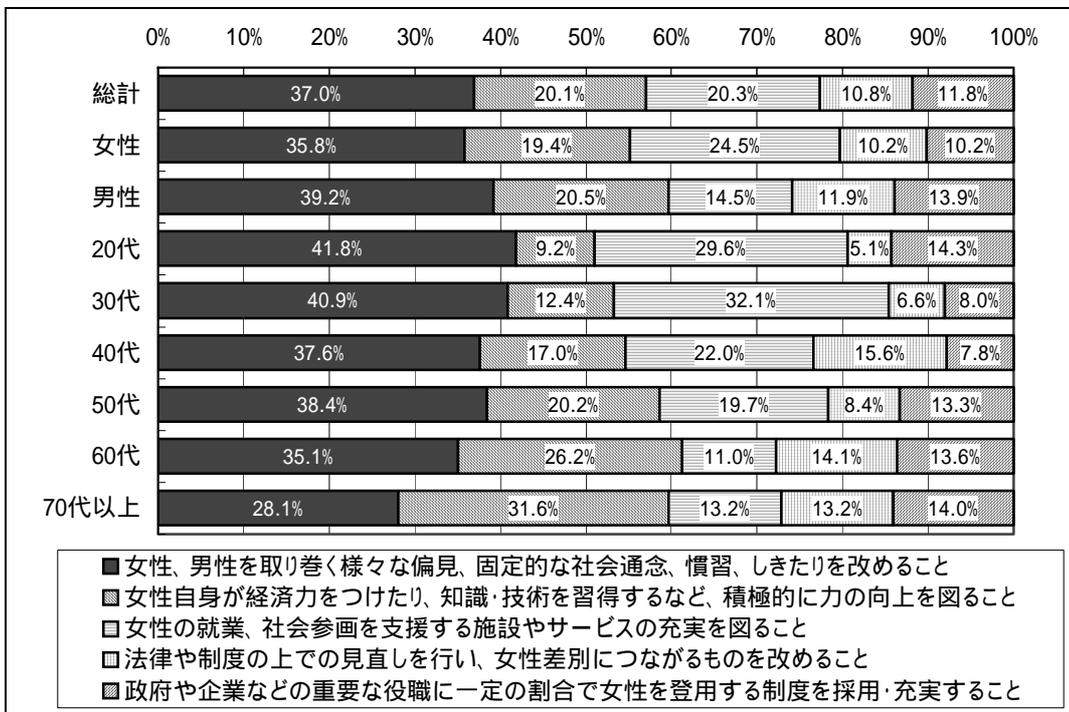
ただし、『C地域活動』と『F法律や制度』では、男女間の意識の差が大きく、男性が考えているほど女性は「平等」と考えていない。



問8 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。(は1つ)

男女ともに「女性、男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(男性全体 39.2%、女性全体 35.8%) が最も多い。次いで、男性では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(男性全体 20.5%)、女性では「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実を図ること」(女性全体 24.5%) が多い。

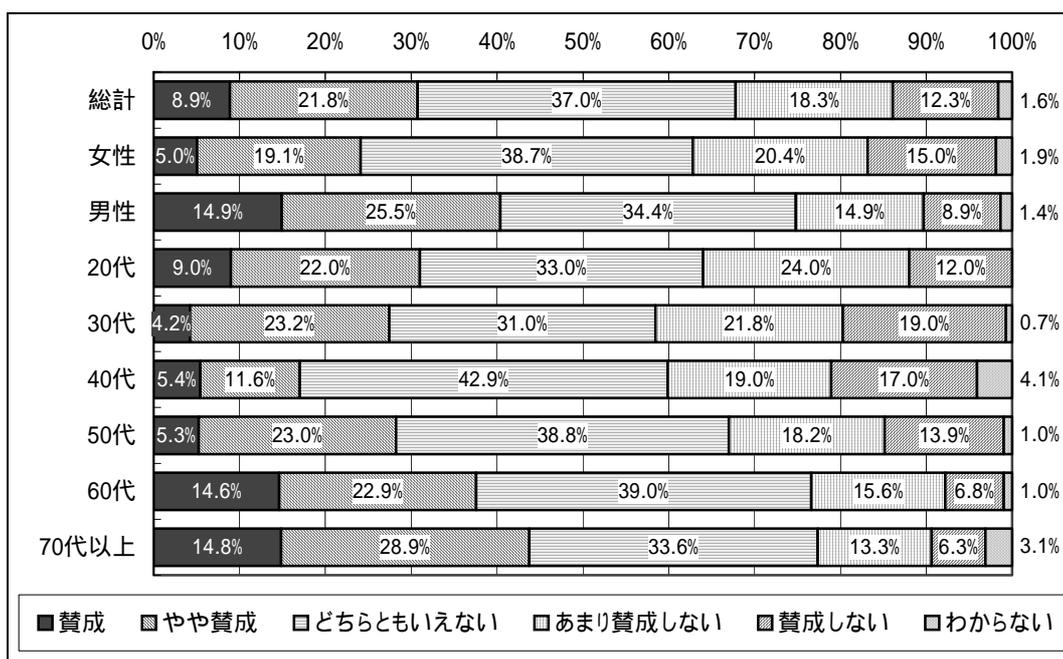
なお、70代以上は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が最も多い。



【家庭生活について】

問9 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(は1つ)

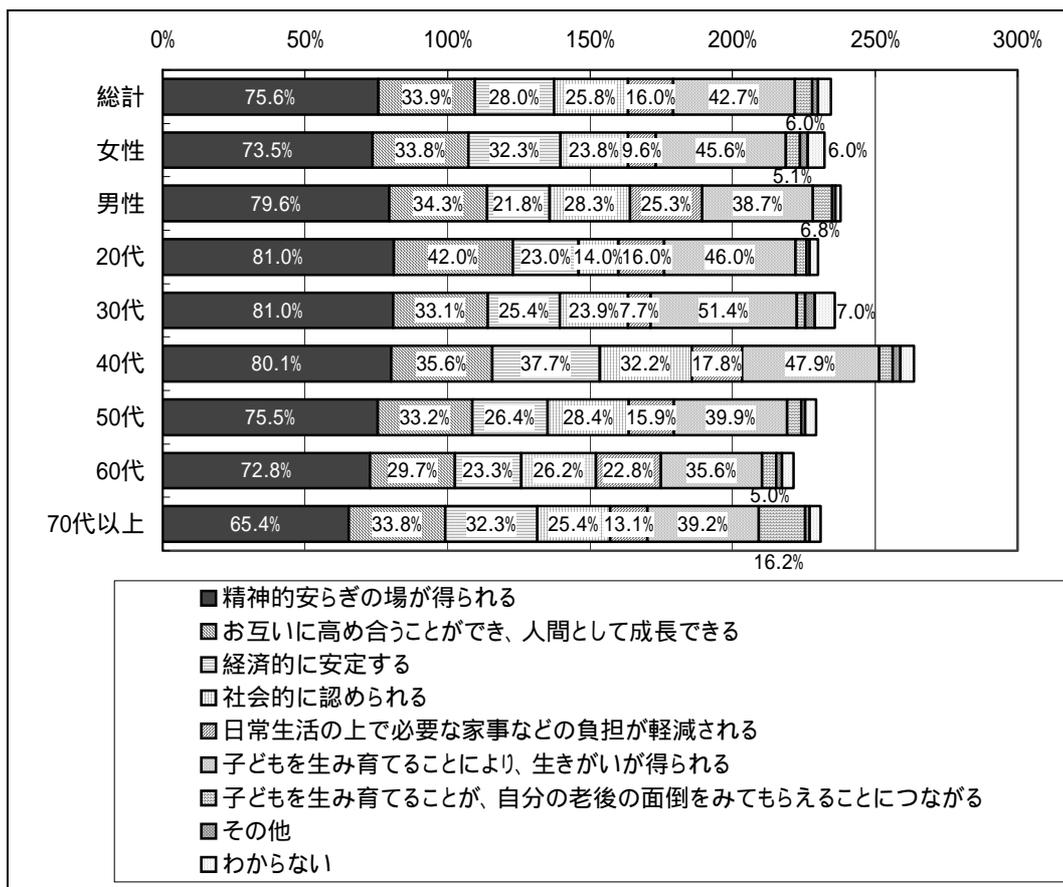
男女ともに「どちらともいえない」(男性全体 34.4%、女性全体 38.7%) が最も多い。しかしながら、「賛成・やや賛成」(男性全体 40.4%、女性全体 24.1%) と「賛成しない・あまり賛成しない」(男性全体 23.8%、女性全体 35.4%) では、男女間に認識の差がみられる。なお、70代は「賛成・やや賛成」が多い(43.7%)。



問 10 あなたは家庭から、何を得られると思いますか。(はいいくつでも)

男女ともに「精神的安らぎの場が得られる」(男性全体 79.6%、女性全体 73.5%) が最も多く、次いで「子どもを生き育てることにより、生きがい得られる」(男性全体 38.7%、女性全体 45.6%) が多く、男女間の認識が共通している。

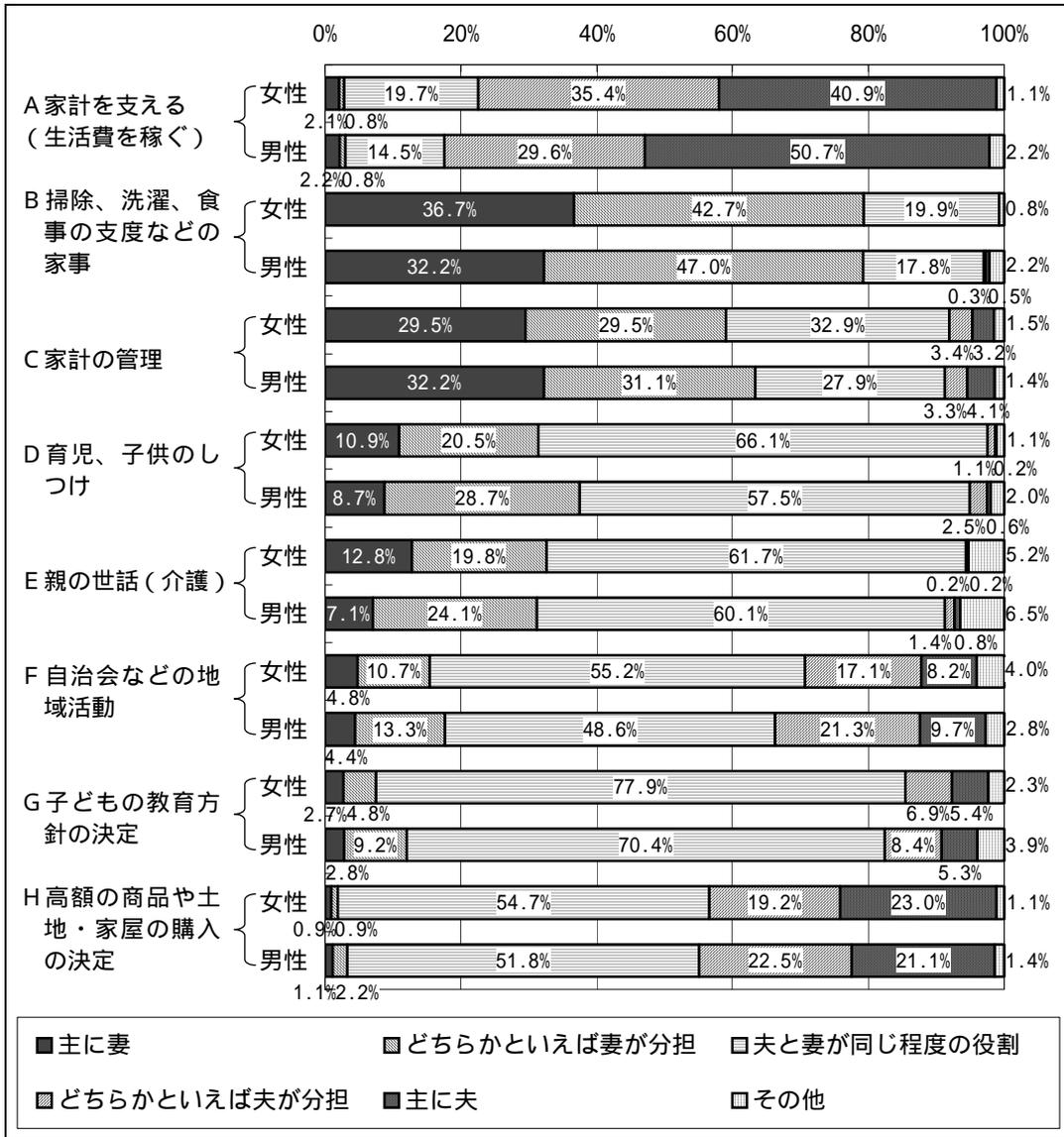
ただし、「日常生活の上で必要な負担が軽減される」(男性全体 25.3%、女性全体 9.6%) については、男女間に認識の差がみられる。



5%未満の数値は省略

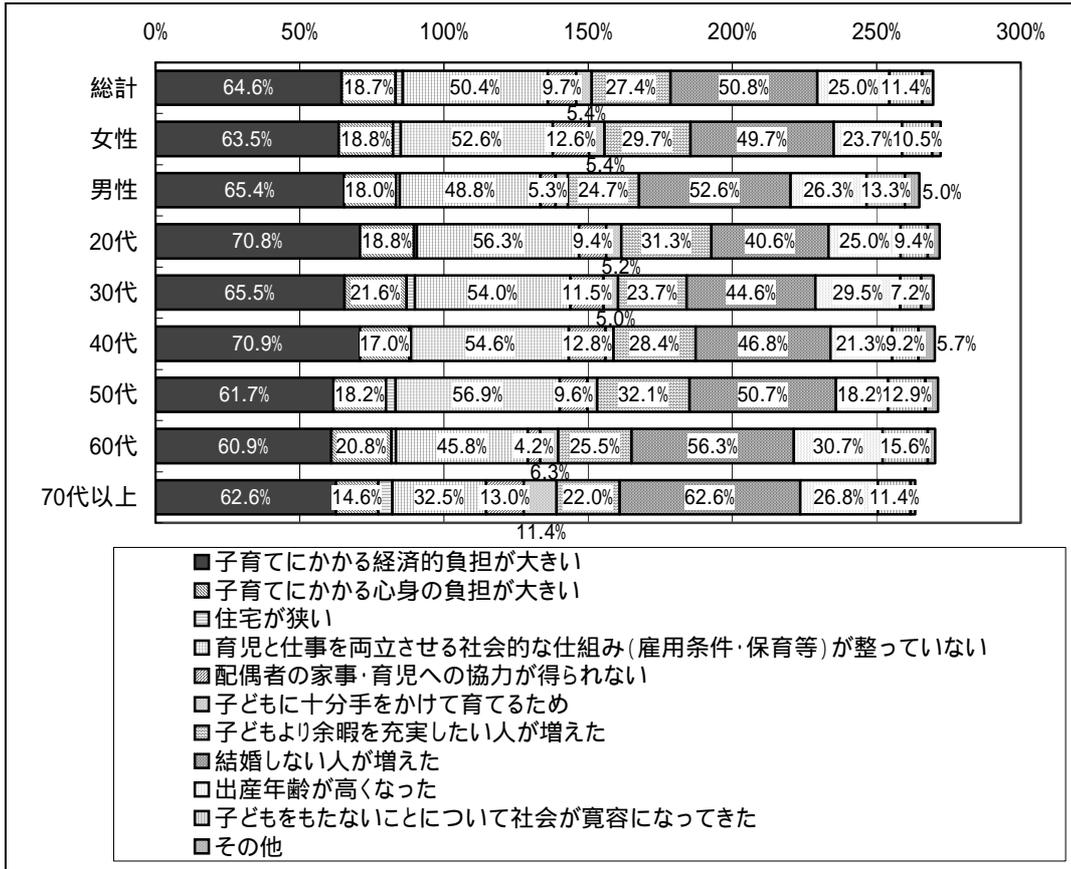
問 11 次にあげる家庭の仕事は、だれの役割だと思いますか。(は1つ)

男女ともに『A家計を支える』と『H高額商品』は「夫」、『B家事』と『C家計管理』は「妻」、その他の仕事は「夫と妻が同じ程度」という認識が共通している。



問 12 近年生まれる子どもの数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思いますか。(は3つまで)

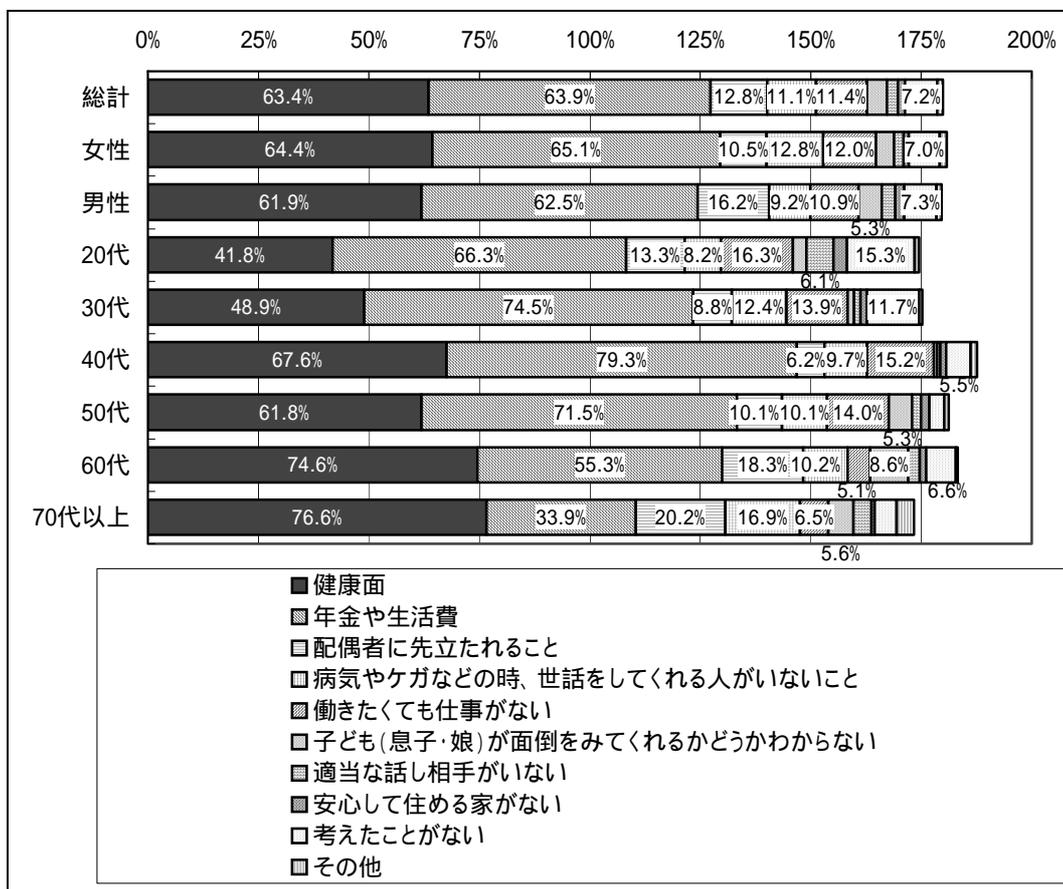
男女ともに「子育てにかかる経済的負担が大きい」(男性全体 65.4%、女性全体 63.5%) が最も多い。次いで、男女間・年代間でわずかな差がみられるが、「結婚しない人が増えた」、「育児と仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない」が 50%前後であり、男女間の認識が概ね共通している。



5%未満の数値は省略

問 13 高齢期に不安だと思うことはありますか。(は2つまで)

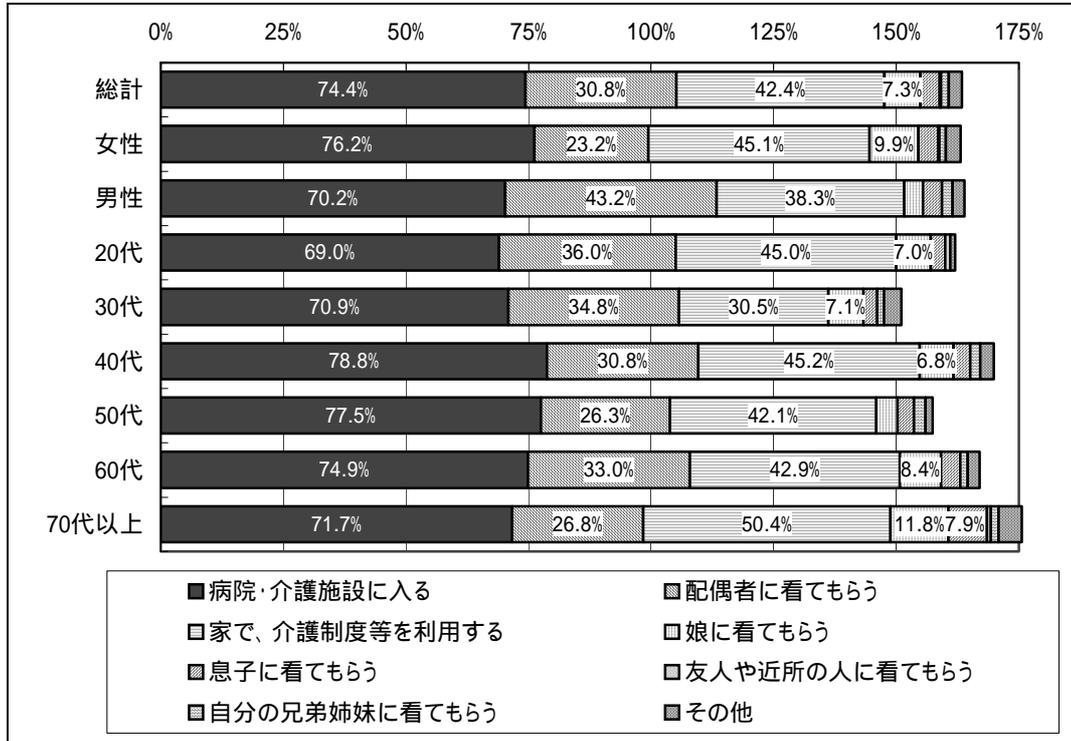
男女ともに「年金や生活費」(男性全体 62.5%、女性全体 65.1%)と「健康面」(男性全体 61.9%、女性全体 64.4%)が多く、男女間の認識が共通している。



5%未満の数値は省略

問 14 あなた自身が高齢になって、病気やケガなどで介護や看護が必要となった時、どうしますか。(は2つまで)

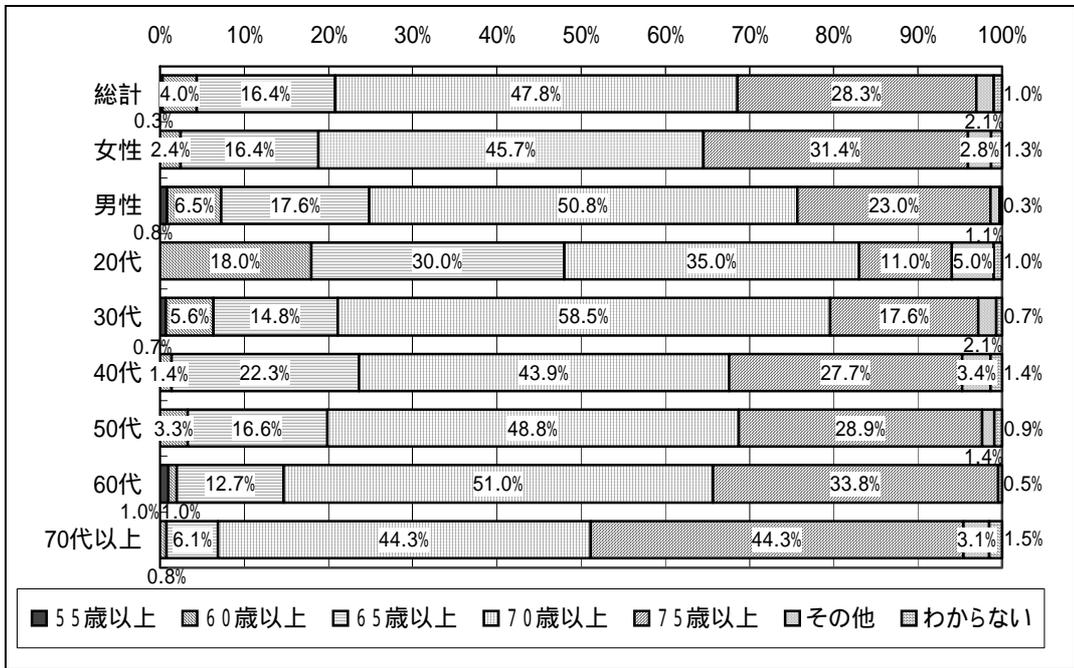
男女ともに「病院・介護施設に入る」(男性全体 70.2%、女性全体 76.2%) が最も多い。次いで、男性では「配偶者に看てもらおう」(男性全体 43.2%)、女性では「家で介護制度等を利用する」(女性全体 45.1%) が多い。



5%未満の数値は省略

問 15 あなたから見て、「高齢者」とは何歳以上ですか。(は1つ)

男女ともに「70歳以上」(男性全体 50.8%、女性全体 45.7%)が最も多い。
また、年齢が高くなるほど「75歳以上」の割合が高くなる。

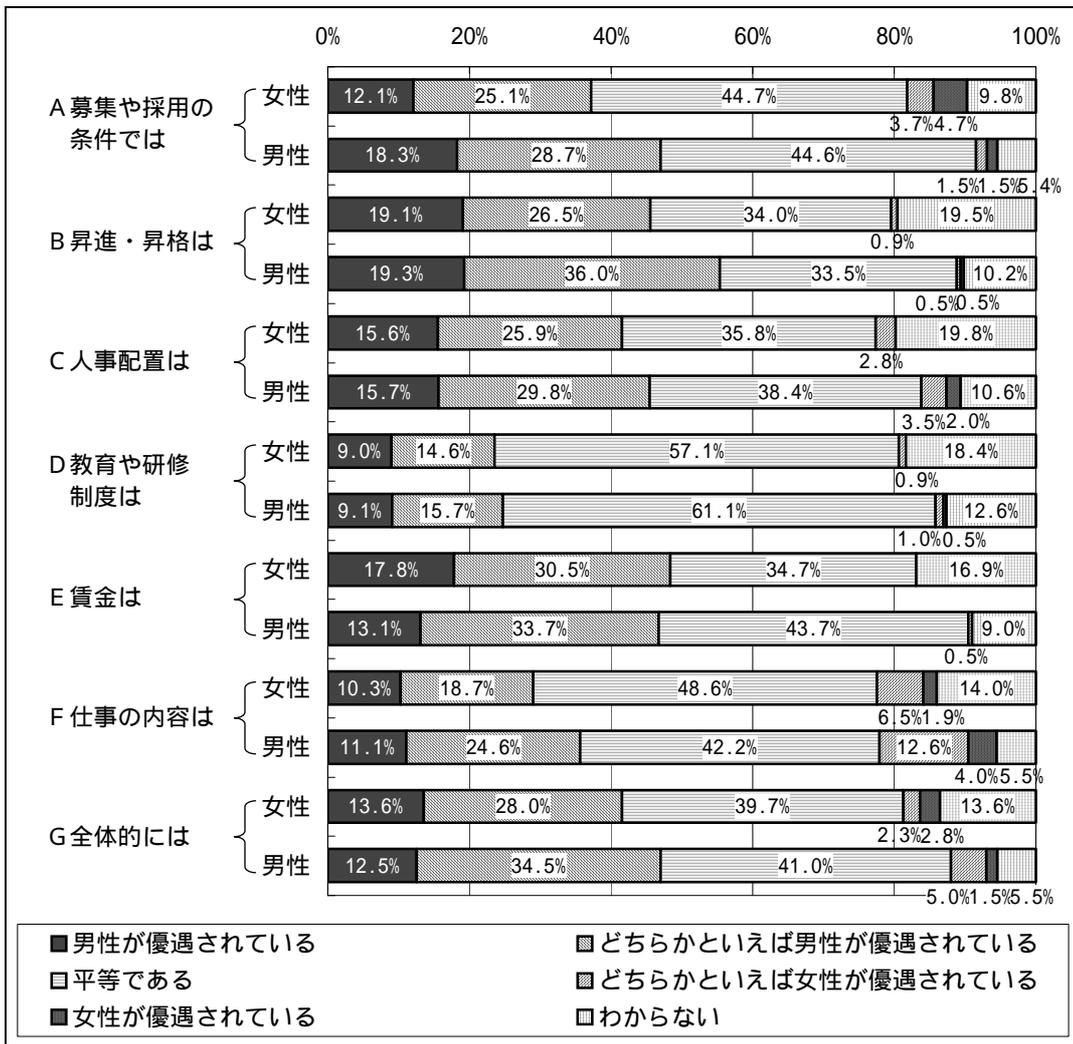


【就労について】

問 16 現在、雇われて働いている方にお聞きします。

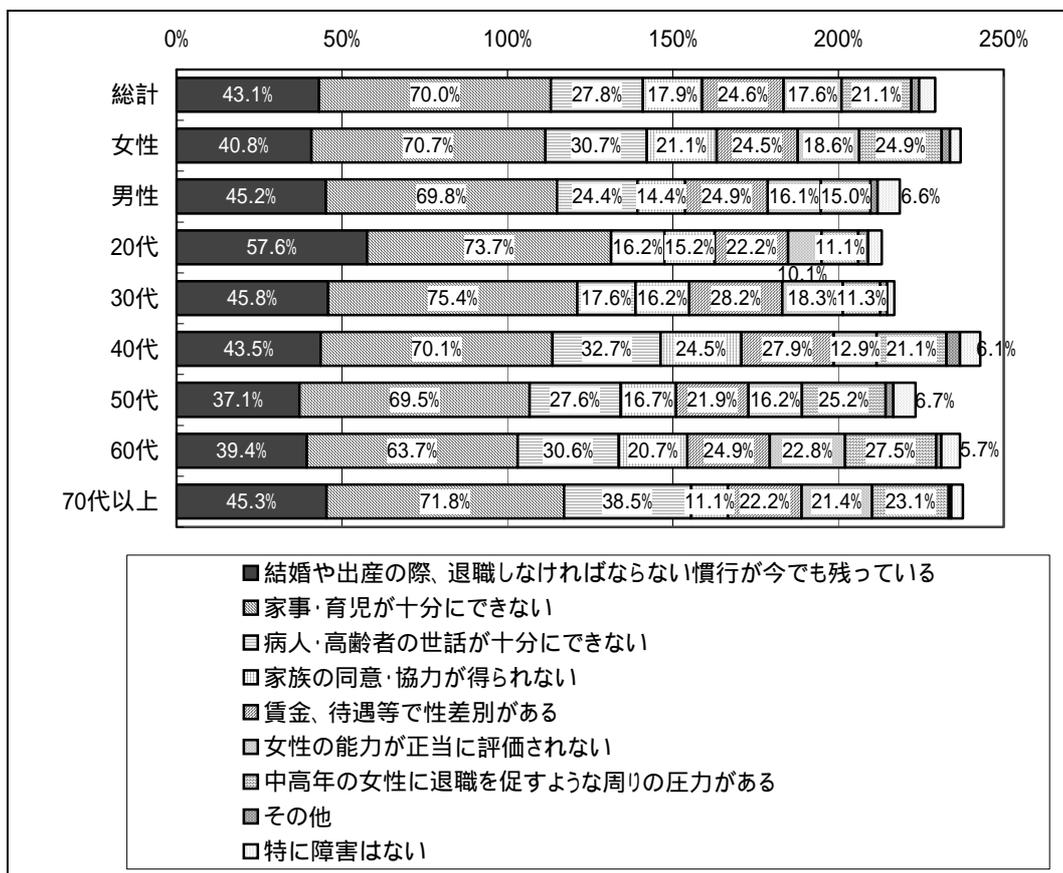
あなたの職場では、次にあげるそれぞれの面で男女平等になっていると思いますか。(は1つ)

全項目において、全体では「平等である」が最も多い。
 しかしながら、『B昇進・昇格』、『C人事配置』、『E賃金』および『G全体』では、男女ともに「男性が優遇されている・どちらかといえば男性が優遇されている」の合計が「平等である」を上回っている。



問 17 女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(は3つまで)

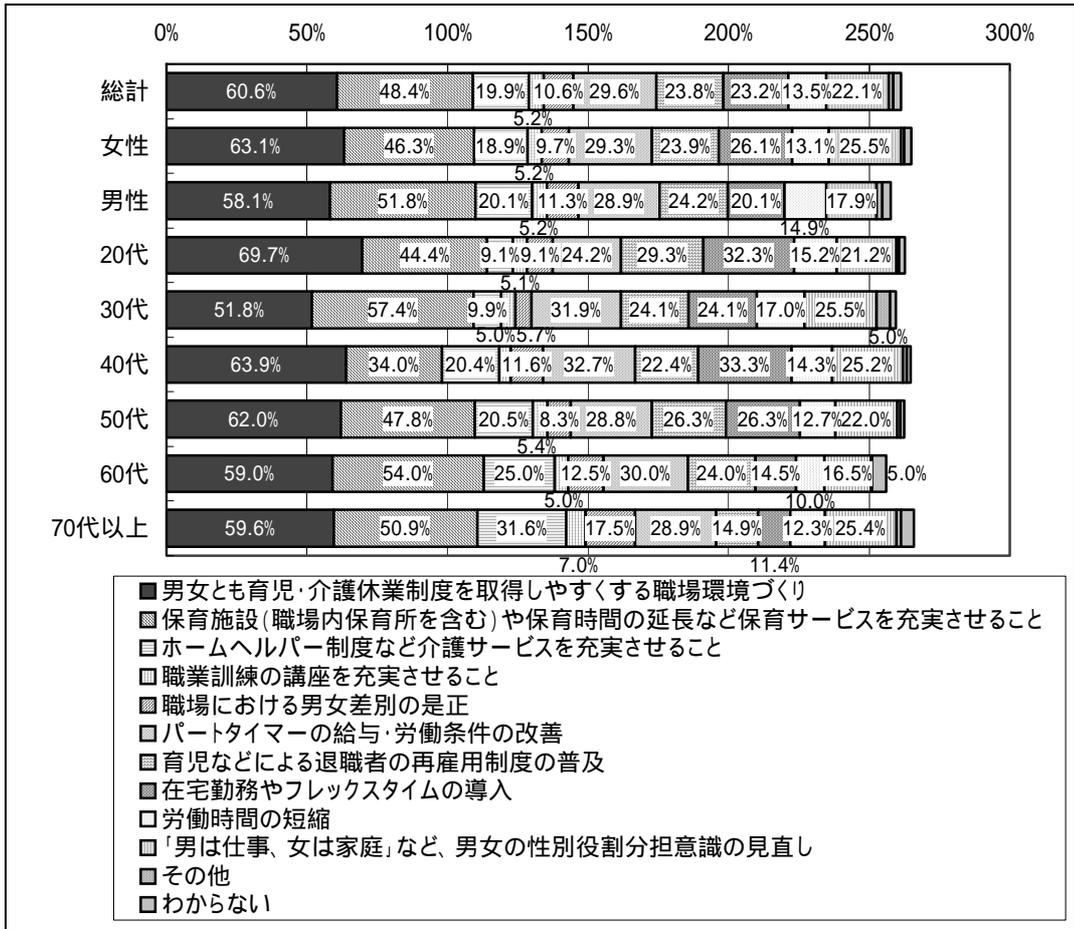
男女ともに「家事・育児が十分にできない」(男性全体 69.8%、女性全体 70.7%)が最も多く、次いで「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」(男性全体 45.2%、女性全体 40.8%)が多く、男女間の認識が共通している。



5%未満の数値は省略

問 18 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。(は3つまで)

男女ともに「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」(男性全体 58.1%、女性全体 63.1%) が最も多く、次いで「保育施設(職場内保育所を含む)や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」(男性全体 51.8%、女性全体 46.3%) が多い。



5%未満の数値は省略

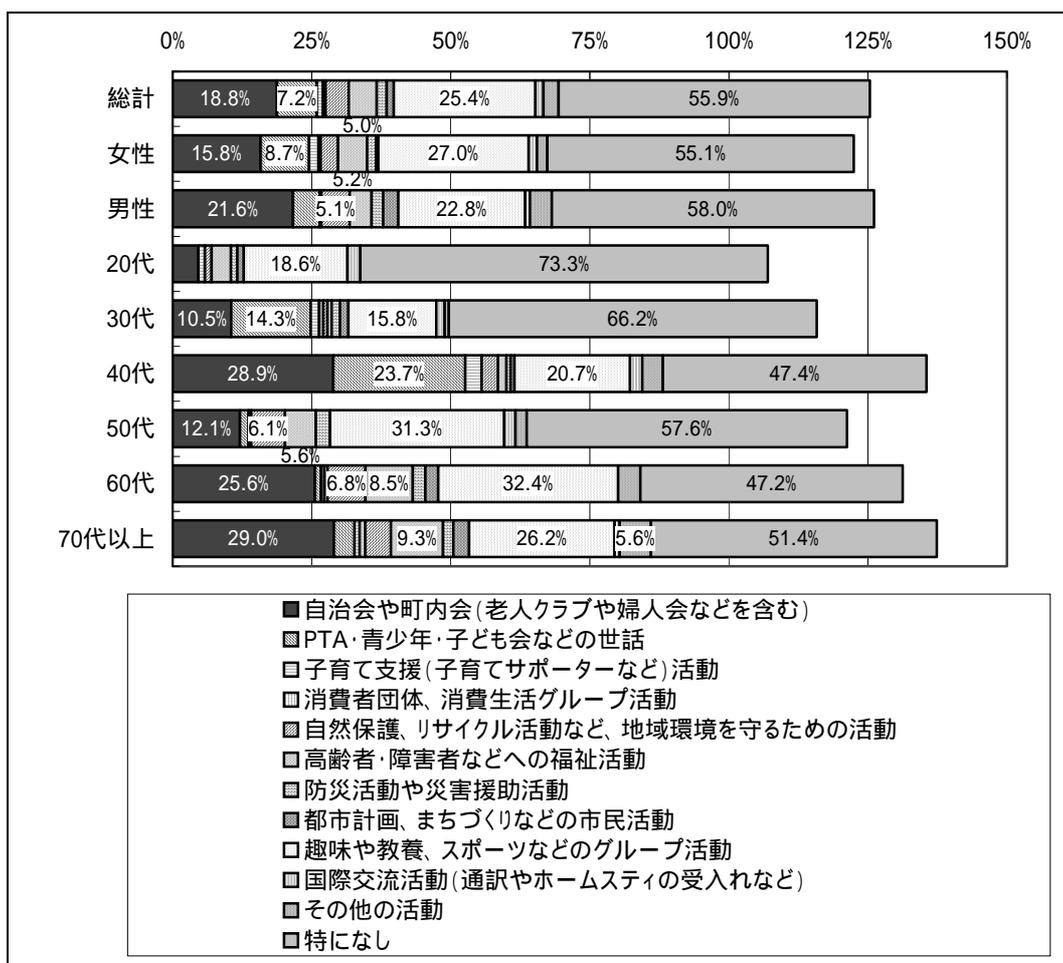
【社会的な活動について】

問 19 あなたは団体やグループで仕事以外の社会活動をしていますか。
現在活動しているもの（はいいくつでも）

男女ともに「特になし」（男性全体 58.0%、女性全体 55.1%）が最も多く、年代別では、20代、30代には活動している人が少なく、40代、60代、70代以上に何らかの活動をしている人が多い。

活動の中では、年代間で差がみられるが「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」（男性全体 22.8%、女性全体 27.0%）、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」（男性全体 21.6%、女性全体 15.8%）が多く、男女間の認識が共通している。

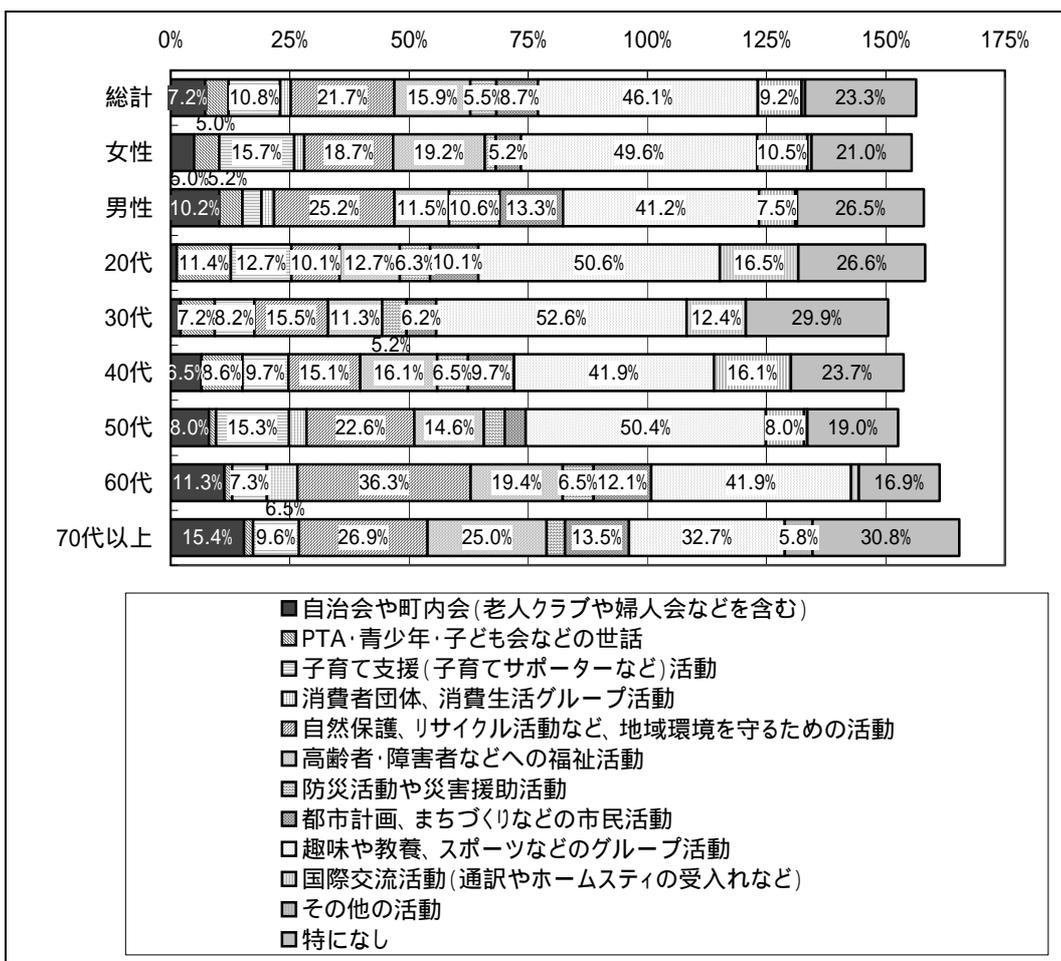
なお、40代では「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」（28.9%）に次いで「PTA・青少年・子ども会などの世話」（23.7%）が多い。



5%未満の数値は省略

今後活動してみたいもの（ は3つまで）

年代間で差がみられるが、全体的に男女ともに「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」(男性全体 41.2%、女性全体 49.6%) が最も多く、次いで「特になし」(男性全体 26.5%、女性全体 21.0%) が多く、男女間の認識が概ね共通している。

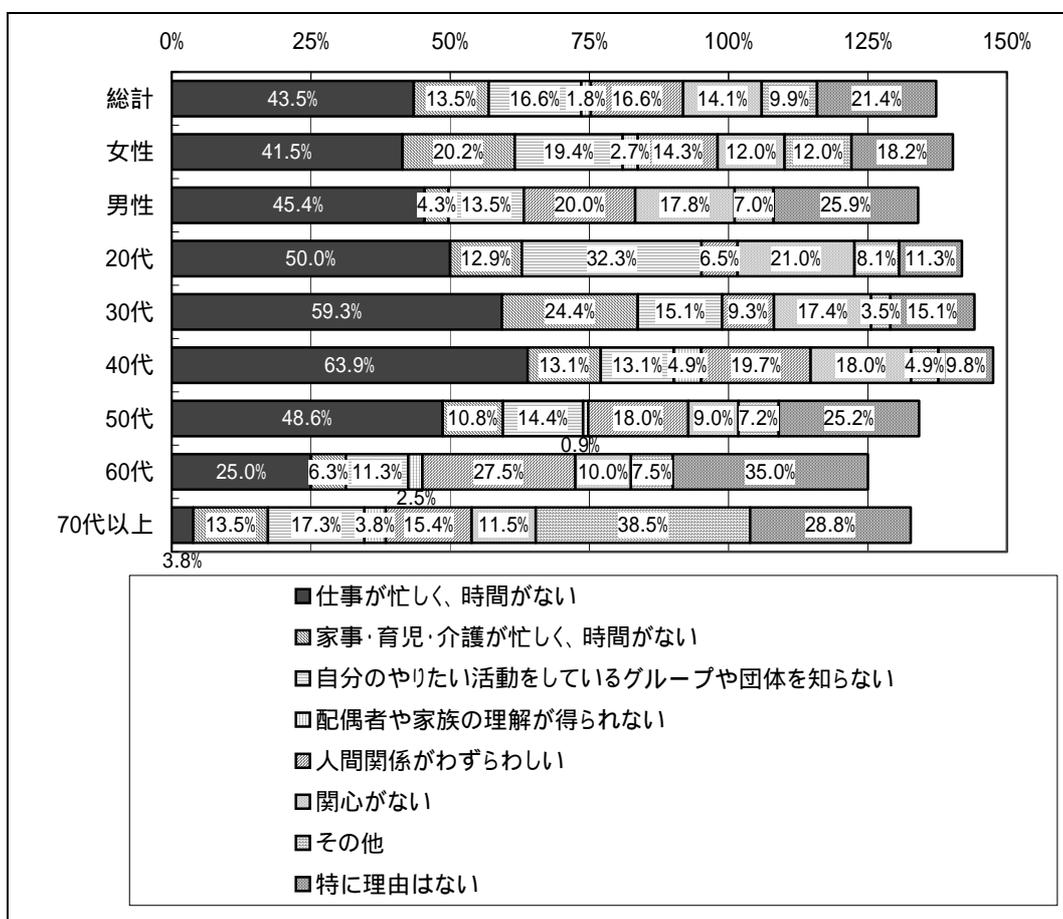


5%未満の数値は省略

問 20 問 19 の現在活動している中で「特になし」に をつけた方にお聞きします。社会的な活動に参加していない理由は何ですか。(は2つまで)

男女ともに「仕事が忙しく、時間がない」(男性全体 45.4%、女性全体 41.5%)が最も多い。次いで、男性では「特に理由はない」(男性全体 25.9%)、「人間関係がわずらわしい」(男性全体 20.0%)、女性では「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」(女性全体 20.2%)、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(女性全体 19.4%)の順であり、男女間の認識が異なっている。

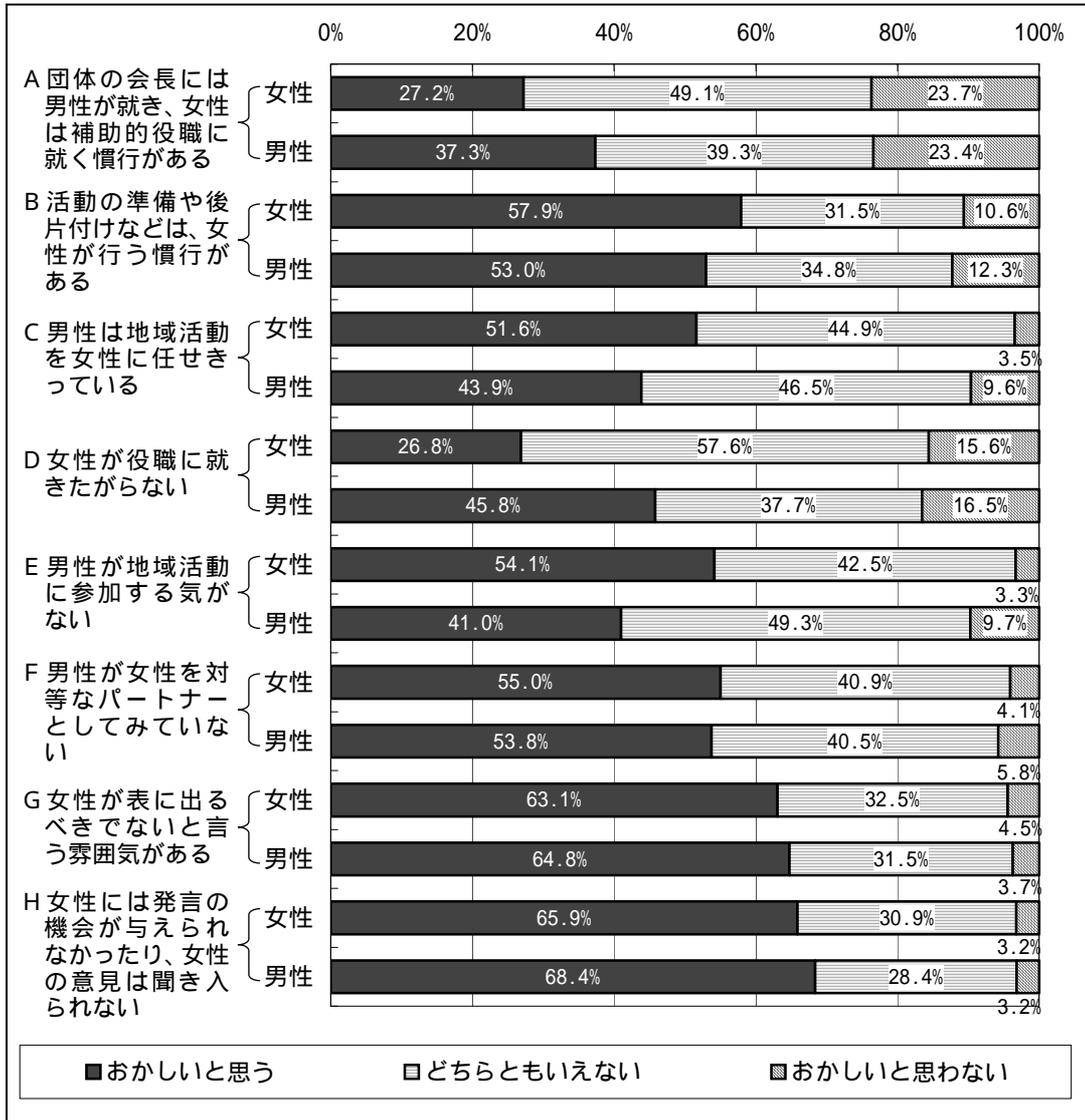
なお、20～50代は「仕事が忙しく、時間がない」、60代は「特に理由はない」が最も多く、70代は「その他」や「特に理由はない」が多い。



問 21 地域活動の中で、次のようなことについてあなたはどのように思いますか。(は1つ)

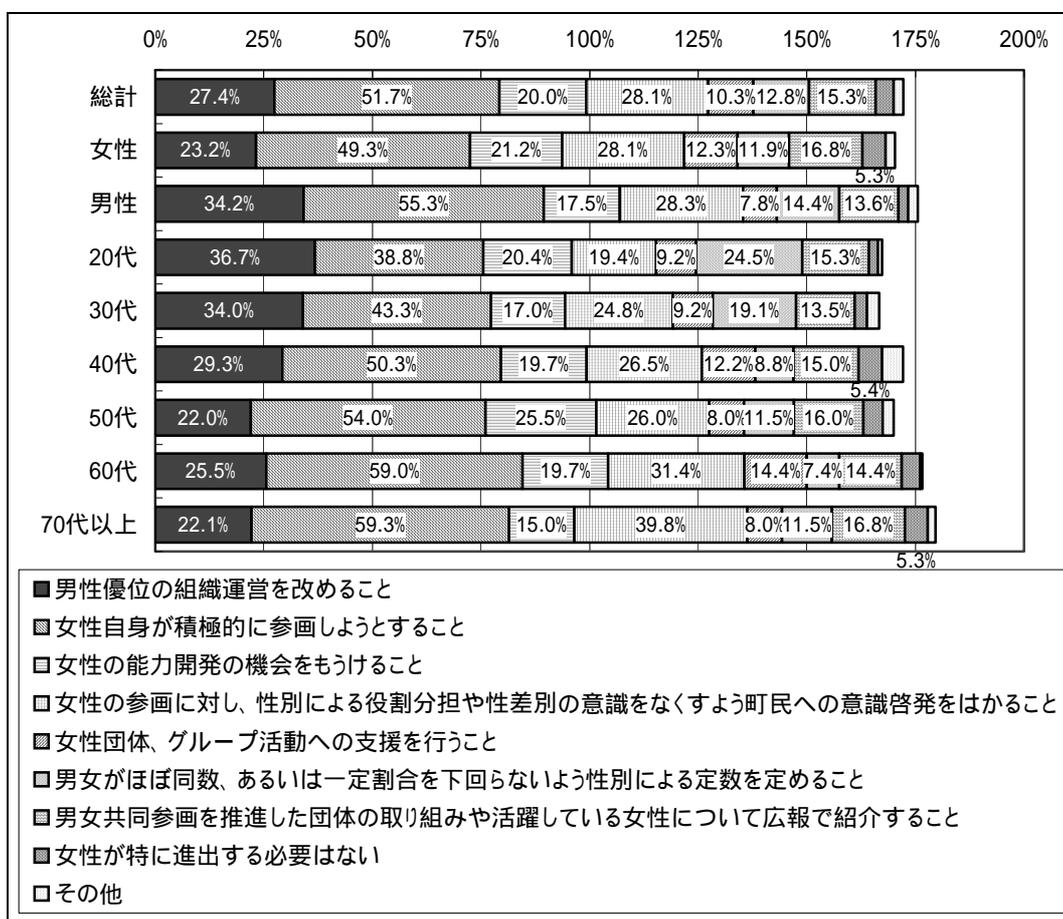
『B準備・片付け』、『F対等なパートナー』、『G雰囲気』、『H発言機会』については、「おかしいと思う」という回答が多く、男女の認識が共通している。

一方、『A会長職』、『D役職に就きたがらない』、『E地域活動への参加』では、男女間の意識に差がみられる。



問 22 町政や地域活動などでの政策・方針決定の場において、女性が進出していくために何が
必要だと思いますか。(は2つまで)

全体では「女性自身が積極的に参画しようとする事」(全体 51.7%、男性全体 55.3%、女性全体 49.3%) が最も多く、男女間の意識は共通している。次いで、年代間で差がみられるが、男性は「男性優位の組織運営を改めること」(男性全体 34.2%)、「女性の参画に対し、性別による役割分担や性差別の意識をなくすよう町民への意識啓発をはかること」(男性全体 28.3%)、女性は「女性の参画に対し、性別による役割分担や性差別の意識をなくすよう町民への意識啓発をはかること」(女性全体 28.1%)、「男性優位の組織運営を改めること」(女性全体 23.2%) の順である。

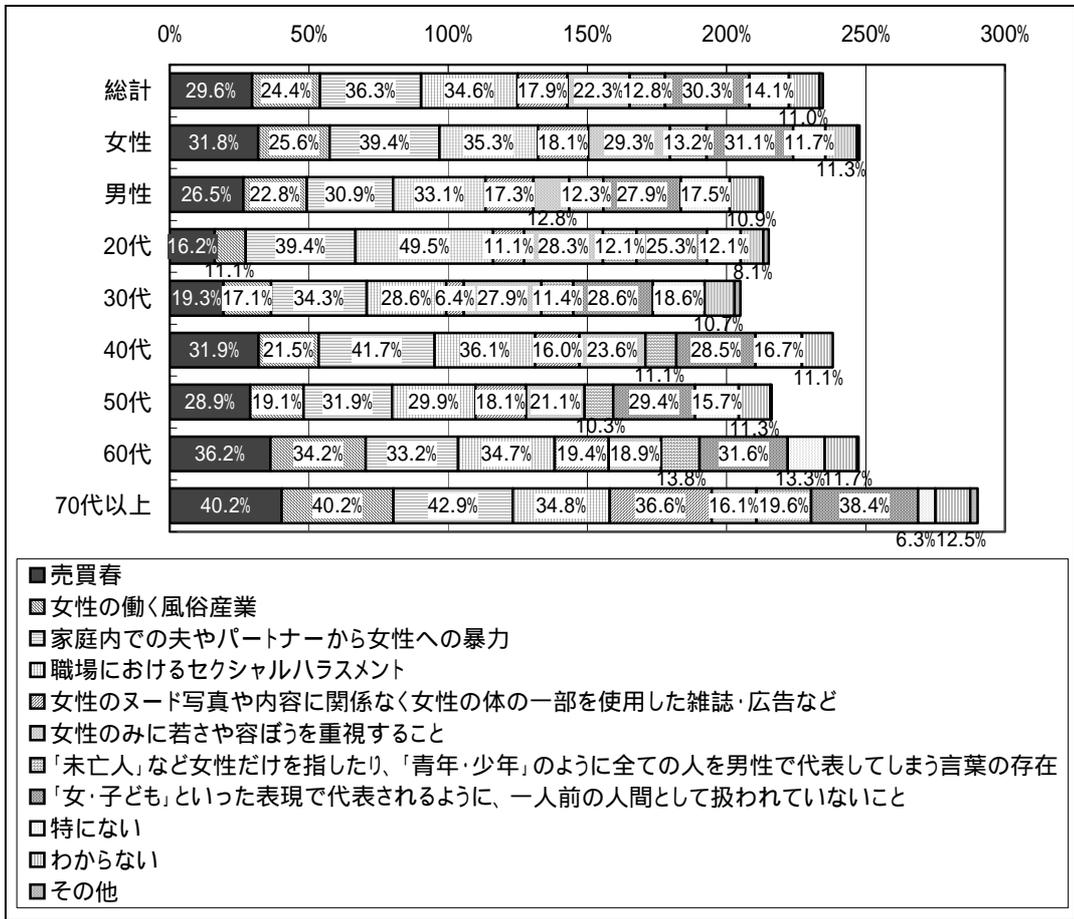


5%未満の数値は省略

【人権について】

問 23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(はいくつでも)

全体では「家庭内での夫やパートナーから女性への暴力」(36.3%)が最も多いが、男性は「職場におけるセクシャルハラスメント」(男性全体33.1%)「家庭内での夫やパートナーから女性への暴力」(男性全体30.9%)、女性は「家庭内での夫やパートナーから女性への暴力」(女性全体39.4%)「職場におけるセクシャルハラスメント」(女性全体35.3%)の順である。
 なお、60代では「売買春」が最も多く、次いで「女性の働く風俗産業」が多い。70代では「家庭内での夫やパートナーから女性への暴力」に次いで「売買春」、「女性の働く風俗産業」が多く、年代間で意識の差がみられる。

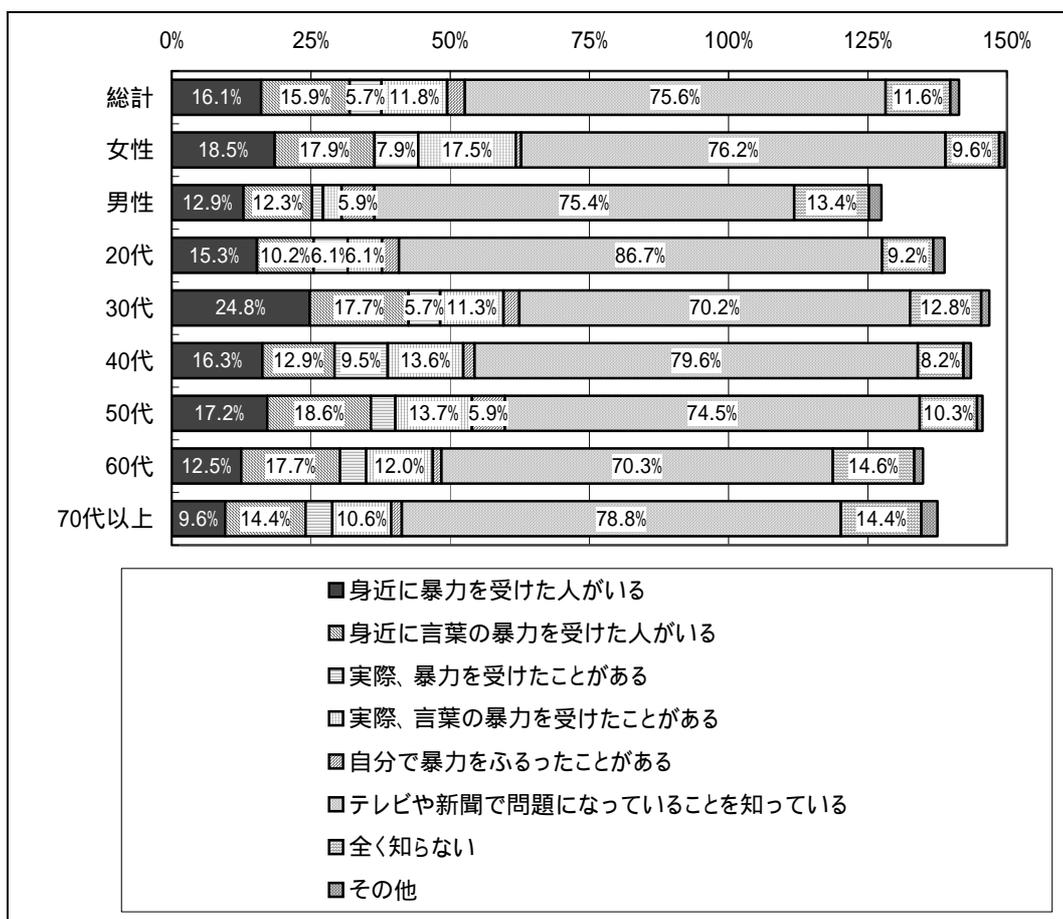


5%未満の数値は省略

問 24 パートナー（配偶者や恋人）の間で、身体的・心理的な暴力を受ける DV（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたは身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。（はいいくつでも）

全体では「テレビや新聞で問題になっていることを知っている」（全体 75.6%、男性全体 75.4%、女性全体 76.2%）が最も多く、男女間で共通している。

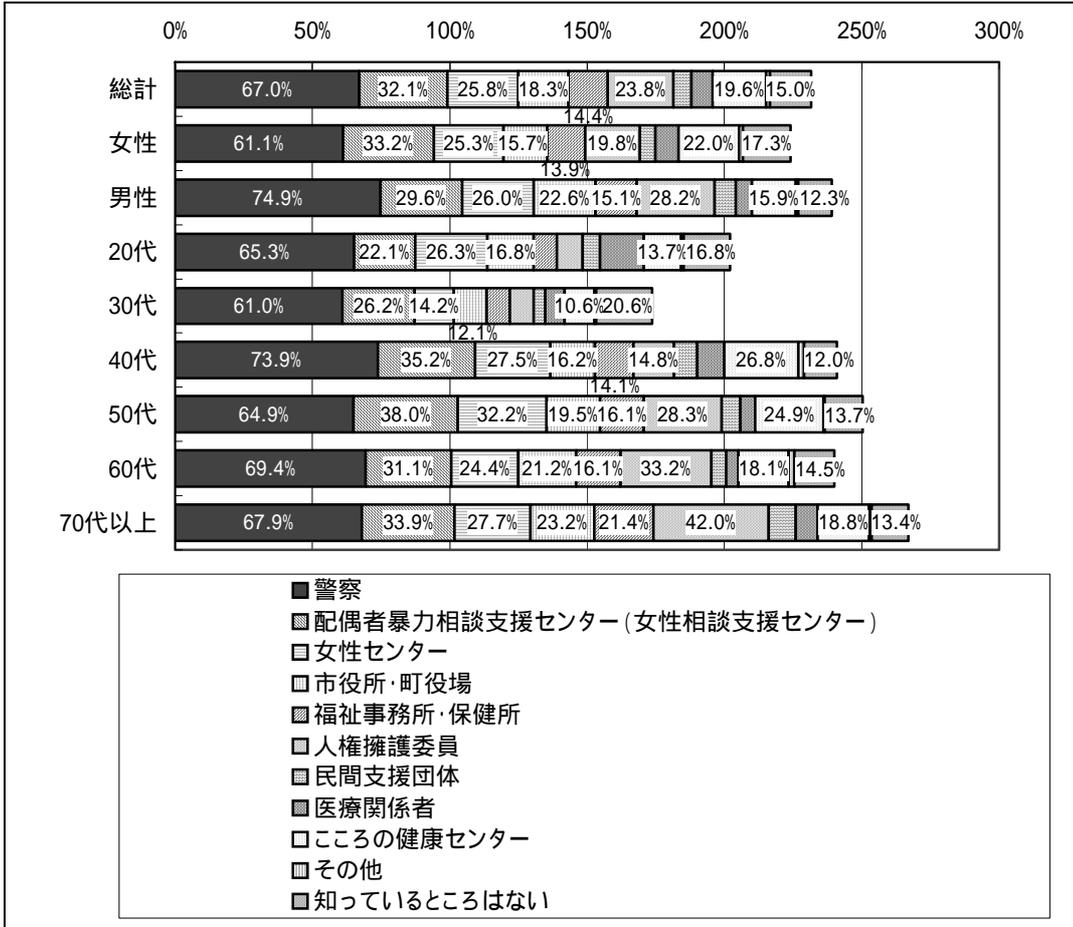
なお、女性において「実際、暴力を受けたことがある」（女性全体 7.9%）、「実際、言葉の暴力を受けたことがある」（女性全体 17.5%）の回答があった。



5%未満の数値は省略

問 25 パートナー（配偶者や恋人）の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものをすべて選んでください。（はいくつでも）

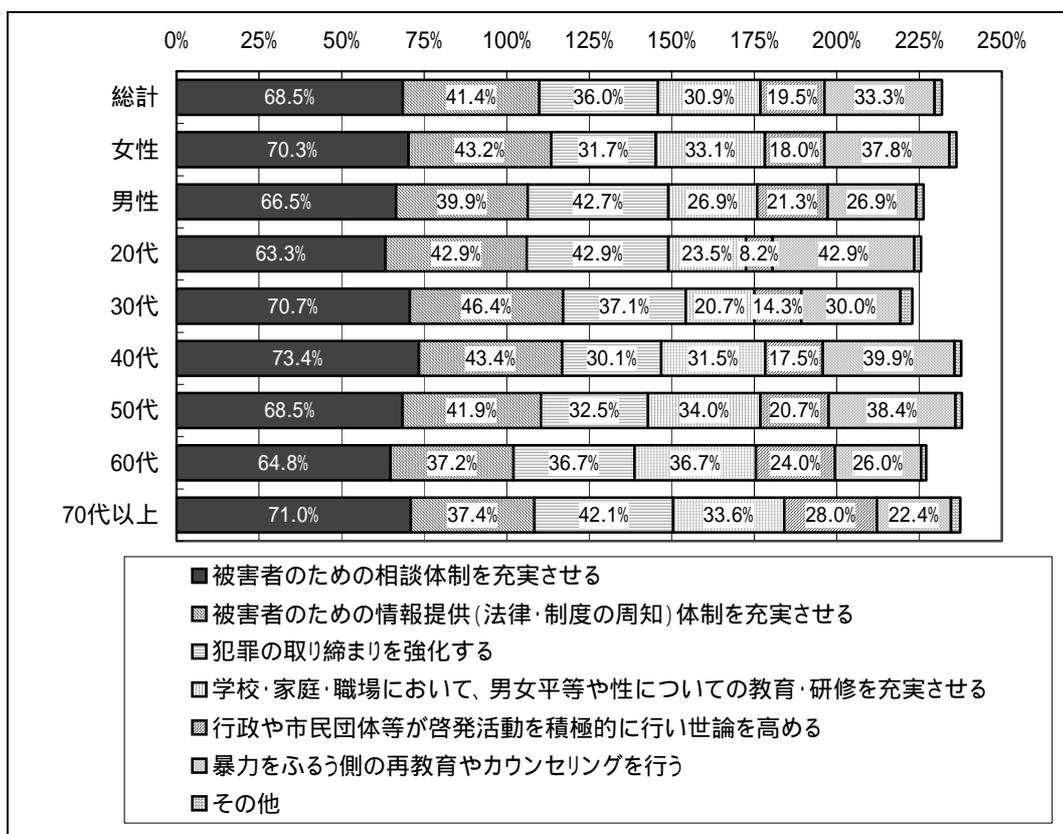
全体では「警察」（全体 67.0%、男性全体 74.9%、女性全体 61.1%）が最も多く、男女間で共通している。
 一方で、男女ともに「知っているところはない」（男性全体 12.3%、女性全体 17.3%）の回答が1割以上ある。



10%未満の数値は省略

問 26 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスなど人権を侵害するような行為に対して、どのような取り組みが重要だと思いますか。(は3つまで)

全体では「被害者のための相談体制を充実させる」(全体 68.5%、男性全体 66.5%、女性全体 70.3%) が最も多く、男女間の意識は共通している。次いで、男性は「犯罪の取り締まりを強化する」(男性全体 42.7%) 「被害者のための情報提供(法律・制度の周知)体制を充実させる」(男性全体 39.9%)、女性は「被害者のための情報提供(法律・制度の周知)体制を充実させる」(女性全体 43.2%) 「暴力をふるう側の再教育やカウンセリングを行う」(女性全体 37.8%) の順である。



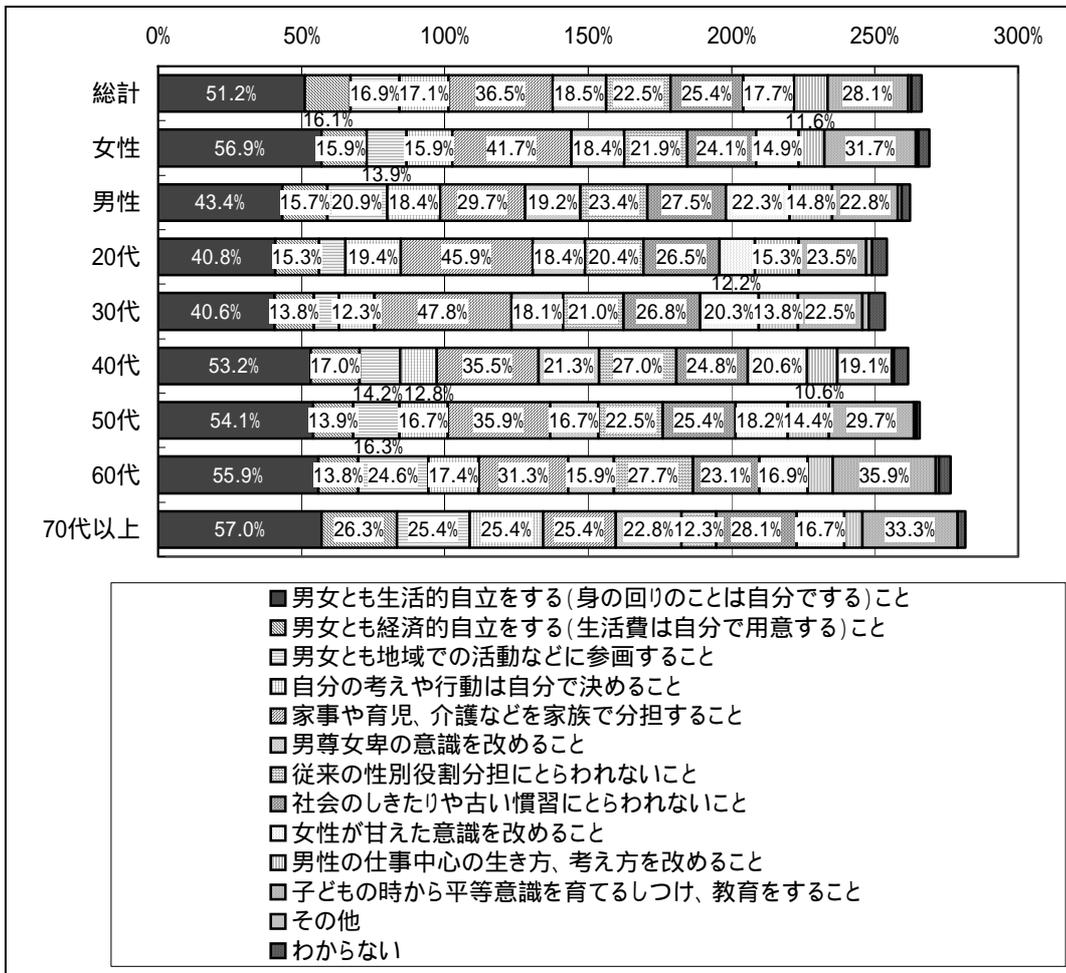
5%未満の数値は省略

【男女共同参画社会について】

問 27 男女共同参画社会の実現のためには、どのようなことが必要だと思われますか。(は 3 つまで)

男女ともに「男女とも生活的自立をする(身の回りのことは自分ですること)」(男性全体 43.4%、女性全体 56.9%) が最も多い。次いで、年代間で差がみられるが、男性は「家事や育児、介護などを家族で分担すること」(男性全体 29.7%)、「社会のしきたりや古い慣習にとらわれないこと」(男性全体 27.5%)、女性は「家事や育児、介護などを家族で分担すること」(女性全体 41.7%)、「子どもの時から平等意識を育てるしつけ、教育をすること」(女性全体 31.7%) の順である。

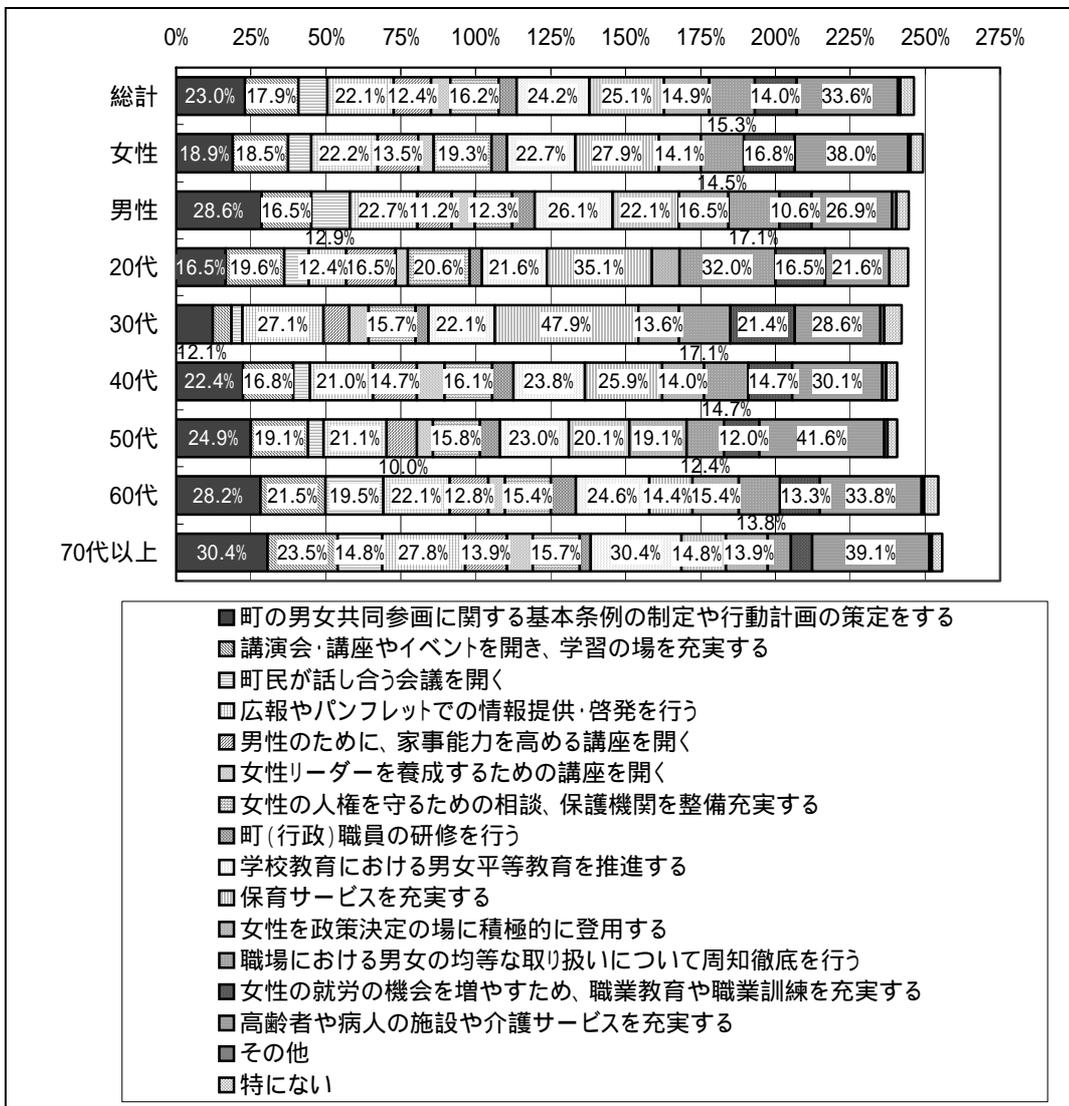
なお、20代・30代では「家事や育児、介護などを家族で分担すること」が最も多い。



10%未満の数値は省略

問 28 町(行政)は男女共同参画社会の実現のためにどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(は3つまで)

全体では「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(33.6%)が最も多いが、男性は「町の男女共同参画に関する基本条例の制定や行動計画の策定をする」(男性全体 28.6%)、「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(男性全体 26.9%)、「学校教育における男女平等教育を推進する」(男性全体 26.1%)、女性は「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(女性全体 38.0%)、「保育サービスを充実する」(女性全体 27.9%)、「学校教育における男女平等教育を推進する」(女性全体 22.7%)の順に多く、男女間に意識の差がみられる。



10%未満の数値は省略